

普及センターだより

耕耳苑

宮古農業改良普及センター
岩泉普及サブセンター

TEL : 0193-64-2220
TEL : 0194-22-3115

FAX : 0193-64-5631
FAX : 0194-22-2806

第 175 号

新年のごあいさつ

宮古農業改良普及センター 所長 加藤 満康

初日の光が海から山へ移り家々にさし入ります。皆様には、数年ぶりに遠くの肉親と出会う方も多いこととお喜び申し上げ、一人一人の願いが叶う良い年になりますようお祈りします。

長いコロナ禍を潜るなか、人と会うことや旅をする自由がいかに大切か、また、食料を自給する農業の意義や農村の良さを再確認しています。そして年の瀬には、三陸道が全線開通し、10年間の日々の思いを重ね合わせて穏やかな未来を願いました。

さて社会は、今年も疫病との共存や持続可能なシステムへの転換が進むと見込まれています。当センターでは、時代の波を越えて地域農業が次代へつながるよう、皆様の経営目標の達成に向けて支援を続けていきます。

今年の干支の「寅」は、「厳しい冬を越えて草木がたくましく伸びる」といわれます。これにあやかって「これまでの苦労が糧になり、経営も人も成長」出来るよう、皆様と共に前へ進んでいく所存です。

本年も職員一同よろしくお祈りいたします。



熊谷憲幸氏「明日を拓く担い手賞」受賞

令和3年12月24日、サンセール盛岡にて「令和3年度いわて農林水産躍進大会」が開催され、宮古市の野菜農家、熊谷憲幸さんが、いわて農林水産振興協議会長表彰の「明日を拓く担い手賞」を受賞しました。この賞は、新たに農林水産業に就業し、意欲を持って経営等に取り組んでいる優れた生産者に贈られるもので、今年度県内では2法人、個人5名の方が受賞しています。

熊谷さんは、ブロッコリー、スイートコーンなど野菜の生産に取り組んでいるほか、宮古地方農村青年クラブ連絡協議会の会長を務めるなど、若手農業者をけん引し、後進の育成に努めてきたこと、さらには地元特別支援学校の就業支援としての収穫体験を受け入れ、農業の理解促進に努めてきたことなどが評価され、受賞に結びつきました。

<経営概要> ブロッコリー50a、スイートコーン30a
玉ねぎ10a、施設トマト3a等

【担当：和野】



令和4年産の稲作に向けて



1 令和3年の生育経過

令和3年は播種期から出穂期頃まで好天に恵まれたことから、生育は比較的良好で出穂期は平年より5～6日早まりました。しかし、8月中旬が低温で経過したことで、初期登熟が緩慢となり、それ以降もやや低温気味に推移したことから、登熟はやや不良となりました。成熟期は平年より3日程早まり、収量は平年並となりました。管内の1等米比率は主要3品種平均で94.7%と高い水準となりました。

2 病害虫の発生状況

出穂期まで好天に推移したため、葉いもちの発生は平年よりもやや少なくなりました。穂いもちは8月中旬の低温の影響により、一部圃場で生育後半に発生しました。

斑点米カメムシは7月のすくいとり調査結果から、広範囲で発生が確認されたものの、防除が適切に行われたことから、斑点米被害は平年並となりました。

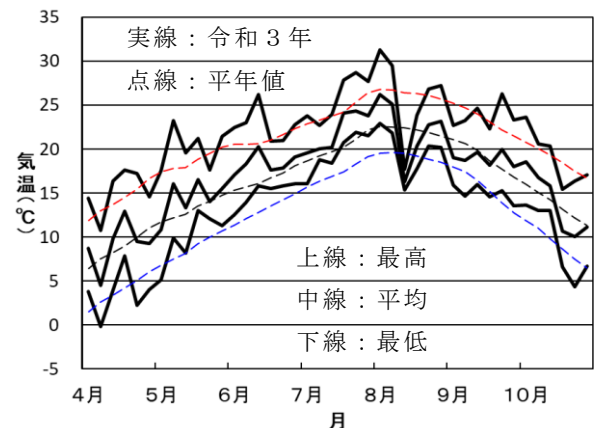


図 令和3年の気温の推移

3 「銀河のしずく」の高品質多収栽培実証

今年度は追肥時期について検証したところ、追肥したすべての区の収量が無追肥区より増加しました（無追肥区比で121%、タンパク基準もクリア）。また、従来の追肥時期よりも早い時期に追肥することで収量がより高まったことから、次年度には年次変動を確認したいと思います。

4 令和4年度栽培の注意点

(1) 適切な温度管理による健苗育成

消毒、浸種、催芽、ハウス内と常に温度管理には気を付けましょう。ハウス内の温度管理はもちろんです。特に一番初めの消毒時の水温はその後の出芽揃いに大きく影響するため、12～15℃の水温を厳守しましょう（10℃以下厳禁）。

(2) 初期生育の確保

管内では疎植気味（50株/坪程度）の栽培が増えており、初期生育（主に茎数）を確保しきれない圃場がみられます。

栽植密度は60～70株/坪を維持し、植付本数も4～5本としましょう。

(3) 追肥の実施

初期生育が十分に確保された圃場では、葉色の低下を確認し、追肥を実施しましょう。追肥の判断については、毎年JA稲作指導会で解説しています。判断に迷う際は普及センターまでご連絡ください。

(4) いもち病対策

近年、不安定な気象条件が発生することがあり、その変化にも対応できるよう、箱粒剤による葉いもちの予防に加え、水田の見回りの強化、穂いもち予防粒剤の散布等により、早期発見と防除に努めましょう。

【担当：小野】

今一度農作業の安全確認を！

本県では、農作業中の死亡事故が令和3年12月上旬時点で8件発生しています。そのうち1件は、宮古管内で発生しました。

農作業事故を防ぐため、農作業安全に向けて以下の事項に注意しましょう。



- 1 作業する日時や場所、内容について、作業前に家族と情報共有する。
- 2 農業機械を操作中の人に、安易に近づかない。
- 3 乗用の農業機械を使用する際は、シートベルトやヘルメットを必ず着用する。
- 4 夕方以降に農業機械を公道で運転する際は、反射材や低速車マークを利用する。

また、管内の警察署から以下の内容について注意喚起がありましたので、あわせてお知らせします。

- 1 軽トラックに農作物等を積載する際は、荷台の横にはみ出すほど積載しない。
- 2 農業機械で道路を通行する際、渋滞や事故を未然に防ぐため、後続車両に道を譲る。
- 3 見慣れた圃場でも、周囲の安全確認を徹底する。

何事もなく今年の農作業を進めることができるように、今一度確認をお願いします。

【担当：千田】

岩泉町・田野畑村農村青年クラブの取組紹介 ～酪農経営視察研修会～

令和3年12月3日に、新築牛舎の建設や牛舎の補修・改修、飼養管理改善に係る技術習得を目的として、管内で畜産経営に取り組む青年クラブ員等5名を対象に、先進・優良事例の視察研修会を実施しました。

今回は、一戸町の(有)岡外牧場、宇別牧野および(株)西館牧場を視察し、「乾乳・育成牛舎の建築に係るアドバイス」や「乾乳・育成牛の飼養管理の工夫・失敗例」等を中心に、管理者の方と活発な意見交換が行われました。

参加者からは、「乾乳牛舎を建築することの重要性を改めて感じた」「育成牛の管理について、良いところは真似したい」との感想が寄せられ、新たな投資や飼養管理の向上につながる視察研修となりました。



視察研修会の様子

【担当：山本】

新農業人、求む！

皆さんのお近くに、「農業を始めたい人」「始めた人」はいませんか？

「後継者が農業を継ぐが、支援制度を知りたい」などのお悩みはありませんか？

普及センターでは、JAや市町村、農業委員会などの関係機関・団体と連携し、営農相談を行っています。

技術習得のための研修先や新規就農者の支援制度などについてご紹介いたします。

また、「もう農業を辞めようと思うが、第三者に機械などを譲りたい」などの相談も随時受け付けております。

お気軽にご相談ください！！



【問い合わせ先】

宮古農業改良普及センター

電話 (宮古本所) 0193-64-2220 担当：久保田

(岩泉サブ) 0194-22-3115 担当：千葉

※ 就農相談は各市町村でも受け付けております

【担当：久保田】

宮古・下閉伊産直ガイドを発行しました

宮古地方産直連絡会では、宮古・下閉伊地域の13産直14店舗の紹介と産直や観光地の場所を記載した「宮古・下閉伊産直ガイド」を令和4年1月に発行しました。

三陸沿岸道路や宮古盛岡横断道路が整備されたこと、「道の駅たのはた 思惟の風」が令和3年4月にリニューアルオープンしたことなどから、以前の産直ガイドの内容を更新したものです。

各産直に配架していますので、地域の産直巡りの際には是非ご活用ください。

【担当：佐藤】

宮古・下閉伊 産直ガイド

発行日 令和4年1月
発行 宮古地方産直連絡会

宮古・下閉伊 産直マップ

地はのイベント情報

宮古地方の多種多様な農産物